

1 本年度の重点教育目標

生き生きと自分らしさを発揮し、心豊かに学び合う子どもの育成

2 本年度の取組の重点

①確かな学びの実現	②豊かな心と健やかな体の育成
③自信と自立心を育む生徒指導の充実	④共に未来を生きる子どものために
⑤保護者や地域と共にあゆむ学校を目指して	⑥育てたい姿を具体的に共有する手立ての工夫

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
①確かな学びの実現	基礎的・基本的な知識や技能の習得と、思考力・判断力・表現力を育成する学習指導の改善充実を通して、主体的・対話的で、深い学びの実現できたか。	a		A	A	
②豊かな心と健やかな体の育成	自己肯定感を高め、生き生きと自分らしさを発揮できるとともに、思いやりの心や自他を尊重する態度など豊かな人間性を育む指導ができたか。	b	他者とかかわり合う学習活動や、地域人材や保護者等、様々な人々とかかわりを深める教育活動を推進する。	A	A	
	自らの健康や体力づくりに関心をもち、運動に親しむ等、体力の増進を図る取組を推進できたか。	b	体力テストの結果等から実態や課題を把握し、児童が課題や目標を意識して取り組めるような体育的行事や体育の授業の充実を図る。	A	A	
③自信と自立心を育む生徒指導の充実	ふれあいと児童理解を基盤として、一人ひとりのよさや持ち味を発揮させる教育ができたか。	a		A	A	
	悩みや不安など子供の内面に寄り添った生徒指導を推進できたか。	a		A	A	
④共に未来を生きる子どものために	一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育の充実を図ることができたか。	a		A	A	
	保護者や地域と連携した今日的な課題への取組や校務の効率化など教職員の業務改善により児童と向き合う時間の確保に努めることができたか。	b	児童と向き合う時間の確保や効率的な校務運営を目指して、ICTの活用や人的運用の工夫、業務内容・日課の見直し等を含めた業務改善をさらに進める。	A	A	・1年生や2年生がパソコンを使いこなしていることに驚いています。
⑤保護者や地域と共にあゆむ学校を目指して	保護者や地域の方々との連携を深め、「開かれた教育課程」の理念を踏まえた「コミュニティー・スクール」の取組を推進することができたか。	a		A	A	・協働活動をさらに充実させていってほしい。
⑥育てたい姿を具体的に共有する手立ての工夫	「どうなれば教育目標を達成できたといえるのか」達成目標、指標、基準を学校・児童・保護者で共有し、児童の成長を見取る根拠ある評価を推進できたか。	a		A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。